

電子納品等運用ガイドライン 【港湾空港編】

平成 30 年 11 月

広島県

1. 適用	1
2. 土木設計業務等の電子納品要領の運用	2
2.1. 適用	2
2.2. 成果品の管理項目	3
3. 工事完成図書の電子納品等要領の運用	8
3.1. 適用	8
3.2. フォルダ構成	9
3.3. 成果品の管理項目	10
4. CAD 製図基準の運用	14
4.1. 表題欄	14
4.2. 図面管理項目	15
4.3. ファイル名	21
4.4. レイヤ名	21
5. デジタル写真管理情報基準の運用	22
5.1. 写真管理項目	22
5.2. 撮影頻度と提出頻度の取り扱い	23
6. 地質・土質調査成果電子納品要領の運用	26
6.1. CAD 図面データ作成の基準	26
7. 測量成果電子納品要領の運用	27
7.1. 適用	27
7.2. 成果品の管理項目	28
8. 土木設計業務等の電子納品要領 電気通信設備編の運用	29
8.1. 適用	29
8.2. 成果品の管理項目	30
9. 工事完成図書の電子納品等要領 電気通信設備編の運用	31

9.1.	適用	31
9.2.	フォルダ構成	32
9.3.	成果品の管理項目	32
10.	CAD 製図基準電気通信設備編の運用	33
10.1.	表題欄	33
10.2.	図面管理項目	33
11.	土木設計業務等の電子納品要領 機械設備工事編の運用	34
11.1.	適用	34
11.2.	成果品の管理項目	34
12.	工事完成図書の電子納品等要領 機械設備工事編の運用	35
12.1.	適用	35
12.2.	フォルダ構成	36
12.3.	成果品の管理項目	36
13.	製図基準 機械設備工事編の運用	37
13.1.	表題欄	37
13.2.	図面管理項目	37
資料 - 1	港湾・海岸・空港コード一覧表	38
資料 - 2	レイヤ名一覧表	40
資料 - 3	港湾工事工種体系ツリー	52
資料 - 4	空港土木工事工種体系ツリー	53

1. 適用

広島県発注の港湾空港関係事業における成果品の電子納品は、広島県で公開している各種電子納品要領・基準（以下「要領」といいます。）に準拠した納品を基本とします。

電子納品等運用ガイドライン【港湾空港編】（以下、「港湾空港資料ガイドライン」といいます。）は、各種電子納品要領・基準で定められた電子納品を広島県発注の港湾空港関係事業において運用するための方法を示すものです。

【解説】

国土交通省及び広島県で公開している要領を広島県発注の港湾空港関係事業（以下、「港湾空港関係」といいます。）における電子納品に適用するためには、規定の一部を修正解釈する必要があります。本書では、それらについてとりまとめています。

要領とは、次の要領・基準を示します。

- ・土木設計業務等の電子納品要領（平成 29 年 8 月）
- ・土木設計業務等の電子納品要領 電気通信設備編（平成 30 年 11 月）
- ・土木設計業務等の電子納品要領 機械設備工事編（平成 30 年 11 月）
- ・工事完成図書の電子納品等要領（平成 29 年 6 月）
- ・工事完成図書の電子納品等要領 電気通信設備編（平成 30 年 11 月）
- ・工事完成図書の電子納品等要領 機械設備工事編（平成 30 年 11 月）
- ・CAD 製図基準※1（平成 29 年 3 月）【国土交通省】
- ※1 各要領・基準には、同解説資料を含む。
- ・CAD 製図基準電気通信設備編※1（平成 29 年 3 月）【国土交通省】
- ・CAD 製図基準機械設備工事編※1（平成 29 年 3 月）【国土交通省】
- ・デジタル写真管理情報基準（平成 29 年 6 月）
- ・地質・土質調査成果電子納品要領※1（平成 28 年 10 月）【国土交通省】
- ・測量成果電子納品要領（平成 28 年 3 月）【国土交通省】

なお、CAD 図面の作成方法については、CAD 製図基準に準拠しつつ本書「[4. CAD 製図基準の運用](#)」，「[10. CAD 製図基準電気通信設備編の運用](#)」，「[13. 製図基準 機械設備工事編の運用](#)」に従うものとします。

2. 土木設計業務等の電子納品要領の運用

土木設計業務等の電子納品要領（平成 29 年 8 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

2.1. 適用

土木設計業務等の電子納品要領「1 適用」に記載された表 1-1 共通仕様書の内容については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」、または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」として読み替えます。

【解説】

港湾空港関係の事業においては、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」（監修：国土交通省港湾局）及び「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」（監修：国土交通省航空局）の規定により設計・測量・調査等の業務が遂行されていることから、上記の共通仕様書及び各業務の特記仕様書に規定される成果品の電子納品に適用することを基本とします。

表 1-1 共通仕様書

No.	名称	監修
1	設計業務等共通仕様書	広島県
2	地質・土質調査業務共通仕様書	広島県
3	測量業務共通仕様書	広島県

表 1-1 共通仕様書（港湾空港における読み替え）

No.	名称	監修
1	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書	国土交通省港湾局
2	空港土木設計・測量・地質土質調査・ 点検業務共通仕様書	国土交通省航空局

2.2. 成果品の管理項目

2.2.1. 業務管理項目

対象水系路線コード及び名称の欄については、「港湾・海岸・空港コード」及び「港湾・海岸・空港名称」を記入します。

- ・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線等コード
- ・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線名

【解説】

対象水系路線コード及び名称については、テクリス入力システムの業務対象水系・路線等コードより選択することとなっています。しかし、このテクリスでは港湾区域を網羅していないため、資料 - 1 港湾・海岸・空港コード一覧表に示す港湾・海岸・空港コード一覧表の港湾・海岸・空港コード及び港湾・海岸・空港名称を利用するものとします。

表 2-1 業務管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	メディア番号	提出した電子媒体の通し番号を記入する。単一の電子媒体であれば1となる。	半角数字	8	□	◎
	メディア総枚数	提出した電子媒体の総枚数を記入する。	半角数字	8	□	◎
	適用要領基準	電子成果品の作成で適用した要領・基準の版（「土木201603-01」で固定）を記入する。 （分野：土木，西暦年：2016，月：03，版：01）	全角文字 半角英数字	30	▲	◎
	報告書フォルダ名	報告書を格納するために「REPORT」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（REPORTで固定）を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○
	報告書オリジナルファイルフォルダ名	報告書オリジナルファイルを格納するフォルダを作成した場合はフォルダ名称（REPORT/ORGで固定）を記入する。	半角英数大文字	10 固定	▲	○
	図面フォルダ名	図面を格納するために「DRAWING」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（DRAWINGで固定）を記入する。	半角英数大文字	7 固定	▲	○
	写真フォルダ名	写真を格納するために「PHOTO」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（PHOTOで固定）を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○
	測量データフォルダ名	測量データを格納するために「SURVEY」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（SURVEYで固定）を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○
業務件名等	地質データフォルダ名	地質データを格納するために「BORING」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（BORINGで固定）を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○
	業務実績システムバージョン番号	国土交通省「電子納品に関する要領・基準」Webサイトを参照し記入する。	半角数字	12	□	◎
	業務実績システム登録番号	コリンズ・テクリスセンターが発行する登録内容確認書に記載される番号を記入する。テクリス登録番号がない業務は、「0」を記入する。	半角英数字	11	■	◎
	設計書コード	契約図書の施行番号 13 桁を記入する。 例) 2782120170620 (HYPHEN-MINUS) は省略する。	半角英数字	30	■	◎
	業務名称	設計図書に記載されている契約上の正式な業務名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	住所コード	該当地域の住所コードを記入する。当該がない場合は「99999」とする。（複数記入可）	半角数字	5 固定	□	◎
	住所	該当地域の住所を記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	履行期間-着手	契約上の履行期間の着手年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず10桁で記入する。 （CCYY：西暦の年数，MM：月，DD：日） 例) 平成28年11月1日→2016-11-01	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	■	◎
	履行期間-完了	契約上の履行期間の完了年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず10桁で記入する。 （CCYY：西暦の年数，MM：月，DD：日） 例) 平成29年3月25日→2017-03-25	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	■	◎

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
場所情報	測地系	日本測地系、世界測地系（JGD2000）、世界測地系（JGD2011）の区分コードを記入する。日本測地系は「00」、世界測地系（JGD2000）は「01」、世界測地系（JGD2011）は「02」を記入する。	半角数字	2 固定	☐	◎
	対象水系路線コード	港湾・海岸・空港コード一覧表の港湾・海岸・空港コードを記入する。（資料-1 参照）	半角数字	5 固定	☐	△
	対象水系路線名	港湾・海岸・空港コード一覧表の港湾・海岸・空港名称を記入する。（資料-1 参照）	全角文字 半角英数字	127	☐	○
	現道-旧道区分	「現道：1」、「旧道：2」、「新道：3」、「未調査：0」のいずれかを記入する。	半角数字	1 固定	☐	○
	対象河川コード	「河川コード仕様書」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。（複数記入可）	半角数字	10 固定	☐	○
	左右岸上下線コード	河川の左岸・右岸の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。（複数記入可）	半角数字	2 固定	☐	○
	測点情報※	起点側測点-n n を 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	☐	○
		起点側測点-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		終点側測点-n n を 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	☐	○
		終点側測点-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
	距離情報※	起点側距離標-n n を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		起点側距離標-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		終点側距離標-n n を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		終点側距離標-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
	境界座標情報	西側境界座標経度 対象領域の最西端の外側境界の経度を記入する。 度（4 桁）分（2 桁）秒（2 桁） 対象領域が西経の場合は、頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を含み 4 桁を記入する。 該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎
		東側境界座標経度 対象領域の最東端の外側境界の経度を記入する。 度（4 桁）分（2 桁）秒（2 桁） 対象領域が西経の場合は、頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を含み 4 桁を記入する。 該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎
		北側境界座標緯度 対象領域の最北端の外側境界の緯度を記入する。 度（4 桁）分（2 桁）秒（2 桁） 対象領域が南緯の場合は、頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を含み 4 桁を記入する。 該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎
		南側境界座標緯度 対象領域の最南端の外側境界の緯度を記入する。 度（4 桁）分（2 桁）秒（2 桁） 対象領域が南緯の場合は、頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を含み 4 桁を記入する。 該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎

分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
施設情報 施設名称	施設名称を記入する。 施設が複数存在する場合は、半角カンマで区切って記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
発注者情報 発注者機関コード	発注者機関コードを記入する。	半角数字	8 固定	■	◎
発注者情報 発注者機関事務所名	発注機関・事務所の名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎
受注者情報 受注者名	企業名（正式名称）を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
受注者情報 受注者コード	コリンズ・テクリスセンターから通知される企業 ID を記入する。受注者コードを持たない受注者は、「0」を記入する。	半角英数字	10	□	◎
業務情報 主な業務の内容	主な業務の内容を「1. 調査設計」「2. 地質調査」「3. 測量」「4. その他」から選択し番号を記入する。	半角数字	1 固定	□	◎
業務情報 業務分野コード	業務分野コード表より選択し記入する。（複数記入可能）	半角英数字	7 固定	■	◎
業務情報 業務キーワード	業務キーワード集より選択し記入する。（複数記入可能）	全角文字 半角英数字	20	■	◎
業務情報 業務概要	業務の概要を記入する。業務の要点が理解しやすいように簡潔かつ正確に記入する。	全角文字 半角英数字	300	■	◎
予備	特記事項がある場合に記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメカ用 TAG	ソフトウェアメカが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 ■：テクリスから出力される XML ファイルから取り込むことが可能な項目

□：電子成果品作成者が記入する項目

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず入力する）

△：任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

2.2.2. 報告書管理項目

成果品の電子媒体に格納する報告書管理ファイル（REPORT.XML）のうち、次の項目については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」の「成果物」または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」の「成果品」に規定する項目を記入します。

- ・報告書ファイル情報 - 設計項目
- ・報告書ファイル情報 - 成果品項目

【解説】

報告書管理ファイル（REPORT.XML）の作成に際し、報告書ファイルの情報を明確にするために、港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書により成果物の分類及び種類を入力するものとします。

具体的には、次の通りです。

- ・「設計項目」の内容：報告書、設計図面（または図面）、資料、等
 - ・「成果品項目」の内容：設計説明書、基本設計計算書、数量計算書、位置図、標準断面図、等
- なお、空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書の成果品の規定には、上記の「成果品項目」に相当する項目が記載されていますが、「設計項目」に相当する分類がありません。このため、「設計項目」には上記の内容を記載するものとします。

表 2-2 報告書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
報告書 ファイル 情報※	報告書名	報告書ファイルの内容が分かるよう報告書名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	報告書副題	報告書名が漠然としている場合は内容が分かる程度の副題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
	報告書ファイル名	報告書ファイルのファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎
	報告書ファイル日本語名	報告書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	報告書ファイル作成ソフトウェア名	報告書ファイルを作成したソフトウェア名をバージョンを含めて記入する。	全角文字 半角英数字	64	□	◎
	設計項目*	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書の各業務の「成果物」に規定する項目を記入する。	全角文字 半角英数字	16	□	○
	成果品項目*	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書の各業務の「成果物」に規定する詳細項目または、空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書の「成果品」に規定する項目を記入する。	全角文字 半角英数字	16	□	○
	報告書オリジナルファイル名	報告書オリジナルファイルのファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	13	▲	○
	報告書オリジナルファイル日本語名	報告書オリジナルファイルの内容について記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
	報告書オリジナルファイル作成ソフトウェア名	格納した報告書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名をバージョンを含めて記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
その他	受注者説明文	受注者側で特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する成果品がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数入力可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。（複数入力可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

- 【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目。
▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。
- 【必要度】 ◎：必須記入。
○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず入力する）
△：任意記入。

注）＊：設計項目と成果品項目は、重複する場合でも両方に記入する。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

3. 工事完成図書の電子納品等要領の運用

工事完成図書の電子納品等要領（平成 29 年 6 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

3.1. 適用

工事完成図書の電子納品等要領「1 適用」に記載された表 1-1 共通仕様書の内容については、「港湾工事共通仕様書」、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」または「空港土木工事共通仕様書」、「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」として読み替えます。

【解説】

港湾空港関係の事業においては、「港湾工事共通仕様書」、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」（監修：国土交通省港湾局）及び「空港土木工事共通仕様書」、「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」（監修：国土交通省航空局）の規定により工事が遂行されていることから、上記の共通仕様書及び各工事の特記仕様書に規定される成果品の電子納品に適用することを基本とします。

表 1-1 共通仕様書

No.	名称	監修
1	土木工事共通仕様書	広島県
2	地質・土質調査業務共通仕様書	広島県

表 1-1 共通仕様書（港湾空港における読み替え）

No.	名称	監修
1	港湾工事共通仕様書	国土交通省港湾局
2	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書	国土交通省港湾局
3	空港土木工事共通仕様書	国土交通省港湾局
4	空港土木設計・測量・地質土質調査・ 点検業務共通仕様書	国土交通省航空局

3.2. フォルダ構成

3.2.1. 「REGISTER」フォルダ

港湾空港関係の事業では、「REGISTER」フォルダに格納すべき電子成果物が該当しないため、「REGISTER」フォルダを作成しません。

【解説】

工事完成図書の電子納品等要領では、「REGISTER」フォルダには、台帳管理ファイルと設計図書に従って工事目的物の完成状態を台帳として記録した工事管理台帳、工事目的物の諸元をとりまとめた施設管理台帳、工事目的物の品質記録をとりまとめた品質記録台帳等を格納するように規定されていますが、港湾空港関係の事業では該当する台帳類が規定されていないため、これらの電子データを管理する「REGISTER」フォルダを作成しません。

3.3. 成果品の管理項目

「対象水系路線名」の欄については、港湾・海岸・空港名称を記入します。

・場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線名

【解説】

工事の実施箇所の対象水系路線名等については、テクリスの「路線・水系名等」に従って記入することとなっていますが、港湾空港工事での工事実施箇所を明確にするために、港湾・海岸・空港名称を入力することとします。（資料 - 1 港湾・海岸・空港コード一覧表参照）

表 4-1 工事管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
基礎情報	メディア番号		提出した電子媒体の通し番号を記入する。単一の電子媒体であれば1となる。	半角数字	8	□	◎
	メディア総枚数		提出した電子媒体の総枚数を記入する。	半角数字	8	□	◎
	適用要領基準		電子成果品の作成で適用した要領・基準の版（「土木 20160301」で固定）を記入する。 （分野：土木，西暦年：2016，月：03，版：01）	全角文字 半角英数字	30	▲	◎
	施工計画書フォルダ名		施工計画書を格納するために「PLAN」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（PLANで固定）を記入する。	半角英数大文字	4 固定	▲	○
	施工計画書オリジナルファイルフォルダ名		施工計画書オリジナルファイルを格納するフォルダ名称（PLAN/ORGで固定）を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○
	打合せ簿フォルダ名		打合せ簿を格納するために「MEET」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（MEETで固定）を記入する。	半角英数大文字	4 固定	▲	○
	打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名		打合せ簿オリジナルファイルを格納するフォルダ名称（MEET/ORGで固定）を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○
	写真フォルダ名		写真を格納するために「PHOTO」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（PHOTOで固定）を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○
	工事完成図フォルダ名		工事完成図を格納するために「DRAWINGF」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（DRAWINGFで固定）を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○
	台帳フォルダ名		台帳データを格納するためのフォルダ名称「REGISTER」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（REGISTERで固定）を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○
	情報※	台帳オリジナルファイルフォルダ名	台帳オリジナルファイルを格納するフォルダ名称（REGISTER/ORG001～nnn）を記入する（nnnは連番を示す）。台帳オリジナルファイルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	15 固定	▲	◎
		台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名	台帳オリジナルファイルを格納するフォルダの日本語名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	▲	◎
	地質データフォルダ名		地質データを格納するために「BORING」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（BORINGで固定）を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○
	その他フォルダ名		その他資料を格納するために「OTHERS」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（OTHERSで固定）を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○
	情報※	その他オリジナルファイルフォルダ名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダ名称（OTHERS/ORG001～nnn）を記入する（nnnは連番を示す）。その他オリジナルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎
		その他オリジナルファイルフォルダ日本語名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダの日本語名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	▲	◎

分類・項目名			記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
工 事 件 名 等	発注年度		工事の発注年度を西暦 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	☐	◎
	工事番号		契約図書の施行番号 13 桁を記入する。 例) 2782120170123 (HYPHEN-MINUS) は省略する。	半角英数字	127	☐	◎
	工事名称		契約図書に記載されている正式の工事名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☒	◎
	工事実績システム登録番号		コリンズ・テクリスセンターが発行する登録内容確認書に記載される番号を記入する。コリンズ登録番号がない工事は「0」を記入する。	半角英数字	11	☒	◎
	工事分野		コリンズの「公共事業の分野」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	☒	◎
	工事業種		コリンズの「本件登録工事の受注に対応した建設業許可業種」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	☒	◎
	法工 型式種 ※工	工種	コリンズの「工種、工法・型式」の「工種」を記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	☒	◎
		工法型式	コリンズの「工種、工法・型式」の「工法・型式」を記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	☒	◎
	情報 ※	住所コード	該当地域の住所コードを記入する。該当がない場合は「99999」とする。（複数記入可）	半角数字	5 固定	☐	◎
		住所	該当地域の住所を記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	☐	◎
	工期開始日		工期の開始日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。 (CCYY：西暦の年数, MM：月, DD：日) 例) 平成 25 年 11 月 1 日→2013-11-01	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	☒	◎
	工期終了日		工期の終了日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。 (C「CYYY：西暦の年数, MM：月, DD：日) 例) 平成 26 年 3 月 31 日→2014-03-31	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	☒	◎
工事内容		工事概要及び主工種とその数量を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	◎	

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
場所情報	測地系	日本測地系, 世界測地系 (JGD2000), 世界測地系 (JGD2011) の区分コードを記入する。日本測地系は「00」, 世界測地系 (JGD2000) は「01」, 世界測地系 (JGD2011) は「02」を記入する。	半角数字	2 固定	☐	◎
	対象水系路線名	港湾・海岸・空港名称を記入する。(資料-1 参照)。	全角文字 半角英数字	127	☐	○
	現道-旧道区分	「現道:1」, 「旧道:2」, 「新道:3」, 「未調査:0」のいずれかを記入する。	半角数字	1 固定	☐	○
	対象河川コード	「河川コード仕様書」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。	半角数字	10 固定	☐	○
	左右岸上下線コード	河川の左岸・右岸の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。(複数記入可)	半角数字	2 固定	☐	○
	測点情報※	起点側測点-n n を 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	☐	○
		起点側測点-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		終点側測点-n n を 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	☐	○
		終点側測点-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
	距離情報※	起点側距離標-n n を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		起点側距離標-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		終点側距離標-n n を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		終点側距離標-m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
	境界座標情報	西側境界座標経度 対象領域の最西端の外側境界の経度を記入する。度 (4 桁) 分 (2 桁) 秒 (2 桁) 対象領域が西経の場合は, 頭文字に「-」 (HYPHEN-MINUS) を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎
		東側境界座標経度 対象領域の最東端の外側境界の経度を記入する。度 (4 桁) 分 (2 桁) 秒 (2 桁) 対象領域が西経の場合は, 頭文字に「-」 (HYPHEN-MINUS) を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎
		北側境界座標緯度 対象領域の最北端の外側境界の緯度を記入する。度 (4 桁) 分 (2 桁) 秒 (2 桁) 対象領域が南緯の場合は, 頭文字に「-」 (HYPHEN-MINUS) を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎
		南側境界座標緯度 対象領域の最南端の外側境界の緯度を記入する。度 (4 桁) 分 (2 桁) 秒 (2 桁) 対象領域が南緯の場合は, 頭文字に「-」 (HYPHEN-MINUS) を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	☐	◎

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
施設情報	施設名称	施設名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
	発注者-大分類	コリンズの「発注機関名・中分類」に従い、発注者の官庁名、団体名等を記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎
発注者情報	発注者-中分類	コリンズの「発注機関名・小分類」に従い、発注者の局名、支社名等を記入する。	全角文字 半角英数字	32	■	◎
	発注者-小分類	コリンズの「発注機関名・細分類」に従い、記入する。「発注機関名・細分類」が空白の場合は、記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	30	■	◎
	発注者コード	発注機関の発注者のコードを記入する。	半角英数字	8 固定	■	◎
受注者情報	受注者名	受注者名の正式名称を記入する。JV の場合には、JV の正式名称及び代表会社名を続けて記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	受注者コード	発注者が定める受注者コードを記入する。	半角数字	127	□	○
予備		特記事項がある場合に記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 ■：コリンズから出力される XML ファイル（コリンズ提出用ディスクのファイルフォーマット）から取り込むことが可能な項目。

□：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成支援ツール等が自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

4. CAD 製図基準の運用

CAD 製図基準（平成 29 年 3 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

4.1. 表題欄

1. 表題欄の位置

表題欄は、図面の右下隅にある輪郭線に接して記載することを原則とします。

2. 記載事項

表題欄は、次の項目について記載することを原則とします。ただし、これによりがたい場合は、別途基準等にて定めることで、その一部を変更・追加できるものとします。

- （年度） 年度を記載する。
- （図面番号） 図面番号（全ての図面の通し番号）を記載する。
- （工事名） 業務名又は、工事件名を記載する。
- （図面名称） 図面名称を記載する。
- （縮尺） 紙出力する際の縮尺を記載する。
- （単位） 単位を記載する。
- （設計年月） 図面を設計した日付（竣工日など）を記載する。
- （組数） 図面総数を記載する。

3. 表題欄の様式

表題欄の寸法及び様式は、次図を標準とします。

年度	平成〇〇年度	図面番号		10
工事名				15
図面名称				15
縮尺		単位		10
設計年月		組数		10
広島県〇〇建設事務所				10
20	30	20	30	単位 (mm)
100				

4.2. 図面管理項目

電子媒体に格納する図面管理ファイル（DRAWING.XML）のうち、次の項目については次の規定に従います。

- ・ 共通情報 - 対象工種
- ・ 共通情報 - 追加工種
- ・ 図面情報 - 作成者名
- ・ 図面情報 - 縮尺

【解説】

「CAD 製図基準」1 総則 1-6 成果品 1-6-2 図面管理項目参照。

表 4-1 図面管理項目

分類	No.	分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
共通情報	1	適要用領基準*A)	図面作成時に適用した本基準を土木 201703-01 等の記入例に従います。 (分野：土木，西暦年 2017，月：03，版：01)	全角文字 半角英数字	30		
	2	対象工種（数値*B）※	「本要領」で対象とする工種を表 4-2～表 4-4 から選択し，数値（501～520 又は 001～035）で記入する。対象工種の選択に際しては，表 4-2 を優先する。その他の追加工種がある時は，追加工種を 601～999 の数値で記入する。なお，追加工種を記入した場合には，3，4 の項目を必ず記入する。	半角数字	3	□	◎
	3	追加工種 ※	本基準で定義していない工種を追加する場合は，601～999 の数値を記入する。	半角数字	3	□	○
	4	追加対象工種（概要） *1)	上記の追加工種概要を具体的に記入する。 (3 の項目とセットで複数入力可)	全角文字 半角英数字	127		
	5	追加サブフォルダ名称	サブフォルダを作成したときのサブフォルダ名称を記入する。 (重複は不可)	半角英数 大文字	8	□	○
	6	追加サブフォルダ名称の概要 ※	上記のサブフォルダの概要を具体的に記入する。 (5 の項目とセットで複数入力可)	全角文字 半角英数字	127		
図面情報 *2)	7	図面名	表題欄に記述する図面名を記入する。	全角文字 半角英数字	64	□	◎
	8	図面ファイル名	・ 図面ファイルのファイル名の拡張子を含めて記入する。 ・ 全角文字はユーザ定義領域に限る。	全角文字 半角英数 大文字	64		
	9	作者名	表題欄に記述する会社名を記入する。	全角文字 半角英数字	32		
	10	図面ファイル作成ソフトウェア名	図面ファイルを作成したソフトウェア名を，バージョンを含めて記入する。	全角文字 半角英数字	64		
	11	縮尺	縮尺を記入する。 複数の縮尺が混在する場合は，代表縮尺を記入する。	半角英数字	16		
	12	図面番号	表題欄に記述する図面番号を記入する。	半角数字	3		
	13	対象工種*B）（数値）	「本要領」で対象とする工種を表 4-2～表 4-4 から選択し，数値（501～520 又は 001～035）で記入する。対象工種の選択に際しては，表 4-2 を優先する。その他の追加工種がある時は，追加工種を 601～999 の数値で記入する。	半角数字	3		

分類	No.	分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
図面情報 *2)	14	SXF のバージョン	・ SXF Ver. 2.0 のデータで出力した場合は「2.0」と記入する。 ・ SXF Ver. 3.0 のデータで出力した場合は「3.0」と記入する。 ・ SXF Ver. 3.1 のデータで出力した場合は「3.1」と記入する。	半角英数字	3	☐	◎
	15	SAF ファイル名	・ SAF ファイルがない場合、もしくは SXF (P2Z) 形式の場合は「0」と記入する。SAF ファイルが発生する場合は、SAF ファイル名を記入する。 例) 001D0PLZ-全体平面図. P21 に SAF ファイルが生成された場合のファイル名 : 001D0PLZ-全体平面図. SAF ・ 全角文字はユーザ定義領域に限る。	全角文字 半角英数 大文字	64	☐	◎
	16	ラスタファイル数*3)	図面で利用するラスタファイルの枚数を記入する。 ラスタファイルを利用しない場合、もしくは SXF (P2Z) 形式の場合は「0」と記入する。	半角英数 大文字	2	☐	◎
	17	ラスタファイル名*3)※	・ 図面で利用するラスタファイルがある場合は、すべてのラスタファイル名を記入する。(複数入力可) 例) SXF Ver2.0 の場合 001D0PLZ-全体平面図. P21 に対応した1枚のラスタファイル名 : 001D0PLZ-全体平面図. TIF 例) SXF Ver3.0 以上の場合 001D0PLZ-全体平面図. P21 に対応した1枚(ラスタファイル番号が1の場合)のラスタファイル名 : 001D0PL1-全体平面図. 拡張子 ・ 全角文字はユーザ定義領域に限る。	全角文字 半角英数 大文字	64		
	18	追加図面種類(略語)	本基準で定義していない図面種類を追加する場合に、本基準に準じた半角英数字2文字の略語で記入する。(ただし、同一工種による略語の重複は、認めない。)	半角英数字	2	☐	○
	19	追加図面種類(概要)	上記の追加図面種類の概要を具体的に記入する。	全角文字 半角英数字	127		
	20	格納サブフォルダ	図面を格納した追加サブフォルダ名を記入する。	半角英数 大文字	8	☐	○

分類	No.	分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
図面情報 *2)	21	測地系		日本測地系（旧測地系），世界測地系（JGD2000, JGD2011）の区分コードを記入する。日本測地系は「00」，世界測地系（JGD2000）は「01」，世界測地系（JGD2011）は「02」を記入する。	半角数字	2	□	◎	
	22	緯度 経度※	基準点情報 緯度	図面中の1点の緯度を記入する。 度（4桁）分（2桁）秒（2桁） 対象領域が南緯の場合は，頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を含み4桁とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	□	(◎)	
	23		基準点情報 経度	図面中の1点の経度を記入する。 度（4桁）分（2桁）秒（2桁） 対象領域が西経の場合は，頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を含み4桁とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8			
	24	平面直角座標※	基準点情報 平面直角座標系番号*5)	図面中の1点の平面直角座標（19系）の系番号を記入する。	半角英数字	2	□	(◎)	
	25		基準点情報 平面直角座標 X 座標	図面中の1点の平面直角座標（19系）を X 座標で記入する。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	11			
	26		基準点情報 平面直角座標 Y 座標	図面中の1点の平面直角座標（19系）を Y 座標で記入する。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	11			
	27	その他	新規レイヤ (略語) *C)	選択した工種で定義していないレイヤを追加する場合に，本基準に準じたレイヤ名称 256 文字以内の全角文字（全角文字はユーザ定義領域に限る）及び半角英数大文字で記入する。	全角文字 半角英数 大文字	256	□	○	
	28		※ 新規レイヤ (概要) *6)	27 の項目で追加した新規レイヤに関する内容を記入する。	全角文字 半角英数字	127			
	29		受注者説明文		受注者側で図面に付けるコメントを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	30		発注者説明文		発注者側で図面に付けるコメントを記入する。	全角文字 半角英数字	127		△
	31		予備		その他予備項目を記入する。 (複数入力可)	全角文字 半角英数字	127		△
ソフトメーカ用 TAG※				ソフトウェアメーカが管理のために使用する。（複数入力可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

*A) 本基準の分類は、次のとおり。

平成 14 年 3 月版 港湾 200203

平成 15 年 3 月版 港湾 200303

平成 16 年 3 月版 港湾 200403

平成 17 年 3 月版 港湾 200503-01

平成 20 年 5 月版 土木 200805-01

平成 28 年 3 月版 土木 201603-01

平成 29 年 3 月版 土木 201703-01

*B) 対象工種に記入する数値は、表 4-2～表 4-4 から選択する。

対象工種に入力する港湾施設関連の工種一覧表を次表に示します。

表 4-2 対象工種一覧（その 1）

大分類	中分類	小分類	入力数値	備考
港湾編	水域施設	航路	501	
		泊地及び船だまり 他		
	外郭施設	防波堤	502	
		防砂堤		
		防潮堤		
		導流堤		
		護岸		
		堤防		
		突堤		
		胸壁		
		水門		
		航路門 他		
	係留施設	岸壁	503	
		係船浮標		
		係船くい		
		さん橋		
		浮さん橋		
		物揚場		
		船揚場 他		
	臨港交通施設	道路（車道）	504	
		道路（歩行者専用道）		
		道路（トンネル）		
		駐車場		
		橋りょう		
		鉄道又は軌道		
		運河		
		ヘリポート		
	荷さばき施設及び移動式荷役機械	上屋 他	505	
	廃棄物処理施設並びに廃棄物の 処理の用に供する船舶及び車両	廃棄物護岸 他	506	
		廃棄物受入れ施設		
	港湾環境整備施設	海浜	507	
		緑地 他		
	その他港湾施設	その他施設	508	
港湾海岸編	海岸施設	堤防、護岸、緩傾斜堤、胸壁	509	
		突堤		
		離岸堤、人工リーフ、消波堤		
		高潮・津波防波堤		
		人工岬		
		人工海浜		
		付帯設備		
	その他の港湾海岸施設	その他施設	510	

表 4-3 対象工種一覧（その 2）

大分類	中分類	小分類	入力数値	備考
空港編	空港用地	空港用地	511	
		護岸		
		揚陸施設		
		場内排水施設		
		空港法面		
		道路法面		
		航空保安施設用地		
		場外排水施設		
		擁壁		
		ダム・調節池		
		調整池		
	基本施設	滑走路	512	
		誘導路		
		エプロン		
		着陸帯・滑走路端安全区域		
		誘導路帯		
	付帯施設	場周道路	513	
		場周柵		
		ブラストフェンス		
		門扉		
	構内道路	車道	514	
		歩道		
		橋梁・歩道橋		
		擁壁（構内道路）		
		案内標識版		
		緑地		
	地下構造物	鉄軌道地下隧道	515	
		トンネル		
		照明共同溝		
		公益共同溝		
		消防水利		
	ライフライン	上水道施設	516	
		下水道施設		
		事業者施設		
	進入灯橋梁	進入灯橋梁	517	
	駐車場	立体駐車場	518	
		平面駐車場		
		バスプール		
		タクシープール		
	気象施設	気象管路	519	
	その他	鉄軌道高架橋	520	
		消防訓練施設		
		その他施設		

表 4-4 対象工種一覧（その 3）

No.	対象工種	入力数値
1	道路	001
2	歩道	002
3	平面交差点	003
4	立体交差	004
5	道路休憩施設	005
6	一般構造物	006
7	地下横断歩道等	007
8	共同溝	008
9	電線共同溝	009
10	地下駐車場	010
11	山岳トンネル	011
12	シールドトンネル（立坑）	012
13	開削トンネル	013
14	橋梁	014
15	護岸	015
16	樋門・樋管，堰，水門，排水機場	016
17	床止め	017
18	堤防，護岸，緩傾斜堤，胸壁	018
19	突堤	019

No.	対象工種	入力数値
20	離岸堤，潜堤，人工リーフ，消波堤	020
21	高潮・津波防波堤	021
22	人工岬	022
23	人工海浜，砂浜	023
24	付帯設備	024
25	砂防ダム及び床固工	025
26	流路工（溪流保全工）	026
27	土石流対策工及び流木対策工	027
28	護岸工	028
29	山服工	029
30	重力式コンクリートダム	030
31	ゾーン型フィルダム	031
32	宅地開発	032
33	公園（基盤整備）	033
34	管路（下水道）	034
35	地質*	035
-	空き	036～099

4.3. ファイル名

作成する CAD 図面のファイル名，並びに添付するファイル名は，「CAD 製図基準」1. 総則 1-5. CAD データの作成 1-5-2. CAD データの名称，1-5-3. SAF ファイルの名称，1-5-4. ラスタファイルの名称の規定に従います。具体的な図面種類は，次表に従います。

ファイル名							図面主別名	備考
図面番号	ライフサイクル	整理番号	図面種類	改訂履歴	ユーザ定義領域	拡張子		
001～999	S D C M	0～9 A～Z	LC	0～9 A～Z	全角文字 半角英数 文字	拡張子	位置図	
			PL				平面図，配置図	
			TS				標準断面図	
			CS				横断図	
			PF				縦断図，正面図	
			GS				(一般)構造図	
			DT				詳細図，政策図	
			AB				配筋図	

ファイル名の規定は，「CAD 製図基準」1. 総則 1-5. CAD データの作成 1-5-2. CAD データの名称，1-5-3. SAF ファイルの名称，1-5-4. ラスタファイルの名称の規定に従います。ただし，ファイル名における港湾施設に関する具体的な図面種類は上表を参照します。

4.4. レイヤ名

レイヤ名の規定は，「CAD 製図基準」1. 総則 1-5. CAD データの作成 1-5-7. レイヤの名称の規定に従います。ただし，港湾施設に関する具体的なレイヤ名については[資料-2 レイヤ名一覧表](#)を参照します。

5. デジタル写真管理情報基準の運用

デジタル写真管理情報基準（平成 29 年 6 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

5.1. 写真管理項目

電子媒体に格納する写真管理ファイル（PHOTO.XML）のうち、写真 - 大分類が「工事」の場合、工種以下の項目について分類が明確で記入可能であれば、港湾工事では（[資料 - 3 港湾工事工種体系ツリー](#)）「港湾工事工種体系ツリー」、空港土木工事においては（[資料 - 4 空港土木工事工種体系ツリー](#)）「空港土木工事工種体系ツリー」に記載されているレベル 2、レベル 3、及びレベル 4 の項目をそれぞれ工種、種別、細別として入力するものとします。

- ・写真情報 - 撮影工種区分 - 工種
- ・写真情報 - 撮影工種区分 - 種別
- ・写真情報 - 撮影工種区分 - 細別

なお、写真 - 大分類が「工事」以外の場合には、工種、種別及び細別の欄は、自由記入とします。

写真タイトルは、撮影写真の内容がわかるように、港湾工事写真管理基準、空港土木工事共通仕様書写真管理、または調査業務写真管理基準、地質・土質調査・試験業務の写真管理に示されている撮影項目、撮影箇所、撮影時期に相当する内容を記入します。

【解説】

デジタル写真管理情報基準の写真管理ファイル（PHOTO.XML）を作成するに際して、撮影工種区分 - 工種、種別、細別については、新土木積算大系において網羅されていない港湾空港関係工事の工種、種別、細別を明確にするために、港湾工事では[資料 - 3 港湾工事工種体系ツリー](#)「港湾工事工種体系ツリー」、空港土木工事においては[資料 - 4 空港土木工事工種体系ツリー](#)「空港土木工事工種体系ツリー」に記載されているレベル 2、レベル 3、及びレベル 4 の項目をそれぞれ工種、種別、細別として入力するものとします。

また、写真タイトルについては、港湾空港関係の事業では、「港湾工事共通仕様書」、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」、または「空港土木工事共通仕様書」、「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」に則って行われていることから、港湾工事写真管理基準、調査業務写真管理基準、または空港土木工事共通仕様書写真管理、地質・土質調査・試験業務の写真管理に示される撮影内容を記入するものとします。

5.2. 撮影頻度と提出頻度の取り扱い

写真の原本を電子媒体で提出する場合は、港湾工事写真管理基準，空港土木工事共通仕様書写真管理，または調査業務写真管理基準，地質・土質調査・試験業務の写真管理に示される撮影基準に基づくものとします。

【解説】

デジタル写真管理情報基準では、「8. 撮影頻度と提出頻度の取り扱い」で写真管理基準に示される撮影頻度に基づくものと規定されています。

しかしながら、港湾空港関係の事業においては、「港湾工事共通仕様書」または「空港土木工事共通仕様書」の規定に基づき工事が遂行されており、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」に則って調査業務が実施されています。

したがって、撮影頻度等についてはそれぞれの共通仕様書に記載されている写真管理の規定に基づくものとします。

表 3-1 写真管理項目

分類・項目名			記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	写真フォルダ名		写真ファイルを格納するフォルダ名称（PHOTO/PIC で固定）を記入する。	半角英大文字	9 固定	▲	◎
	参考図フォルダ名		参考図ファイルを格納するために「DRA」サブフォルダを作成した場合はフォルダ名称（PHOTO/DRA で固定）を記入する。	半角英大文字	9 固定	▲	○
	適用要領基準		電子成果品の作成で適用した要領・基準の版（「土木 201603-01」で固定）を記入する。（分野：土木，西暦年：2016，月：03，版：01）	全角文字 半角英数字	30	▲	◎
写真情報※ 撮影工種区分	写真ファイル情報	シリアル番号	写真通し番号。提出時の電子媒体を通して、一連のまとまった写真についてユニークであれば、中抜けしてもよい。123 枚目を，“ 000123” の様に 0 を付けて記入してはいけない。	半角数字	7	▲	◎
		写真ファイル名	写真ファイル名称を拡張子も含めて記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎
		写真ファイル日本語名	写真ファイルに関する日本語名等を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		メディア番号	一連のまとまった写真について、保存されている電子媒体番号を記入する。単一の電子媒体であれば、全て” 1” となる。	半角数字	8	□	◎
	撮影工種区分	写真-大分類	写真を撮影した業務の種別を「工事」「測量」「調査」「地質」「広報」「設計」「その他」から選択して記入する。工事写真は常に「工事」と記入する。	全角文字 半角英数字	8	□	◎
		写真区分	写真管理基準の分類に準じ、「着手前及び完成写真」（既済部分写真等を含む）「施工状況写真」「安全管理写真」「使用材料写真」「品質管理写真」「出来形管理写真」「災害写真」「事故写真」「その他」（公害，環境，補償等）の区分のいずれかを記入する。大分類が「工事」ではない場合は，自由記入とし，大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は，記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	127	□	○
		工種	<u>土木工事の場合，工種以下の分類が明確で記入可能であれば，港湾工事工種体系，空港土木工事工種体系のレベル 2「工種」（資料 - 3, 4 参照）を記入する。</u> 大分類が「工事」ではない場合は，自由記入とし，大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は，記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	127	□	○
		種別	<u>土木工事の場合，工種以下の分類が明確で記入可能であれば，港湾工事工種体系，空港土木工事工種体系のレベル 3「種別」（資料 - 3, 4 参照）を記入する。</u> 大分類が「工事」ではない場合は，自由記入とし，大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は，記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	127	□	○
		細別	<u>土木工事の場合，工種以下の分類が明確で記入可能であれば，港湾工事工種体系，空港土木工事工種体系のレベル 4「細別」（資料 - 3, 4 参照）を記入する。</u> 大分類が「工事」ではない場合は，自由記入とし，大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は，記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	127	□	○
		写真タイトル	<u>写真の撮影内容がわかるように，港湾工事写真管理基準，空港土木工事共通仕様書写真管理，または調査業務写真管理基準，地質・土質調査・試験業務の写真管理の撮影項目，撮影箇所，撮影時期に相当する内容を記入する。</u>	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	工種区分予備		工種区分に関して特筆事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
写真情報※	付加情報※	参考図ファイル名	撮影位置図、凡例図等の参考図のファイル名を記入する。黒板に記した図の判読が困難となる場合、又は当該写真に関し、撮影位置、撮影状況等を説明するために位置図面または凡例図等の参考図を受注者が作成している場合に記入する。	半角英数大文字	13	▲ ◎
		参考図ファイル日本語名	参考図ファイルに関する日本語名等を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□ ○
		参考図タイトル	参考図の内容が判るようなタイトルを記入する。黒板に記した図の判読が困難となる場合、又は当該写真に関し、撮影位置、撮影状況等を説明するために位置図面または凡例図等の参考図を受注者が作成している場合に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□ ◎
		付加情報予備	参考図、撮影箇所等に関して特筆事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□ △
写真情報※	撮影情報	撮影箇所	当該写真に関する測点位置、撮影対象までの距離、撮影内容等を簡潔に記入する。撮影位置図上に複数撮影位置が記載されている場合には、位置図上の記号等を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□ ○
		撮影年月日	写真を撮影した年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。 (CCYY: 西暦の年数, MM: 月, DD: 日) 例) 平成 29 年 12 月 3 日→2017-12-03	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	□ ◎
写真情報※	項目名	代表写真	港湾工事写真管理基準に示される写真の中から工事の全体概要や当該工事で重要となる代表写真の場合、「1」を記入する。代表写真でない場合は「0」を記入する。	半角数字	1 固定	□ ◎
		提出頻度写真	港湾工事写真管理基準の撮影基準に基づいて発注者と協議の結果提出頻度写真と判断された写真である場合、「1」を記入する。それ以外の場合は「0」を記入する。	半角数字	1 固定	□ ◎
		施工管理値	黒板の判読が困難な場合、設計寸法及び実測寸法等の補足事項を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□ ○
		受注者説明文	受注者側で検査立会者、特筆事項等があれば記入する。	全角文字 半角英数字	127	□ △
ソフトメカ用 TAG		ソフトウェアメカが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。

【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず入力する）

△：任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

6. 地質・土質調査成果電子納品要領の運用

地質・土質調査成果電子納品要領（平成 28 年 10 月）【国土交通省】を，港湾空港関係の事業において適用する際に，留意すべき点を次に示します。

6.1. CAD 図面データ作成の基準

地質平面図及び地質断面図を CAD により作成する場合，「CAD 製図基準」の総則に準拠しつつ本書「4. CAD 製図基準の運用」に従って作図するものとします。

【解説】

地質・土質調査成果電子納品要領の中では，地質平面図及び地質断面図の“CAD における作図の基本については，別途定められた「CAD 製図基準」の総則に従うことを原則とする”としています。

港湾空港関係の事業では，CAD 図面の作成は CAD 製図基準に準拠しつつ本書「4. CAD 製図基準の運用」に従うものとしており，地質・土質調査成果電子納品要領の適用においても，同様に CAD 製図基準に準拠しつつ本書「4. CAD 製図基準の運用」に従うものとします。

7. 測量成果電子納品要領の運用

測量成果電子納品要領（平成 28 年 3 月）【国土交通省】を，港湾空港関係の事業において適用する際に，留意すべき点を次に示します。

7.1. 適用

測量成果電子納品要領「1 適用」に記載された表 1-1 共通仕様書の内容については，「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」，または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」として読み替えます。

【解説】

港湾空港関係の事業においては，「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」（監修：国土交通省港湾局）及び「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」（監修：国土交通省航空局）の規定により設計・測量・調査等の業務が遂行されていることから，上記の共通仕様書及び各業務の特記仕様書に規定される成果品の電子納品に適用することを基本とします。

表 1-1 共通仕様書

No.	名称	監修
1	測量業務共通仕様書	広島県

表 1-1 共通仕様書（港湾空港における読み替え）

No.	名称	監修
1	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書	国土交通省港湾局
2	空港土木設計・測量・地質土質調査・ 点検業務共通仕様書	国土交通省航空局

7.2. 成果品の管理項目

成果品の管理項目のうち業務管理ファイル（INDEX_D.XML）は、「土木設計業務等の電子納品要領」を参照することになっています。

このため、業務管理ファイルの作成に際しては、「土木設計業務等の電子納品要領」とともに、本資料「[2.2. 成果品の管理項目](#)」によるものとします。

【解説】

測量成果電子納品要領（平成 28 年 3 月）では、業務管理ファイル（INDEX_D.XML）に関する規定がなく、「土木設計業務等の電子納品要領」を参照することとなっています。

このため、業務管理項目として記入する対象水系路線コード及び対象水系路線名については、本資料「[2.2. 成果品の管理項目](#)」によるものとします。

8. 土木設計業務等の電子納品要領 電気通信設備編の運用

土木設計業務等の電子納品要領 電気通信設備編（平成 30 年 11 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

8.1. 適用

土木設計業務等の電子納品要領 電気通信設備編「1 適用」に記載された表 1-1 共通仕様書の内容については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」、または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」として読み替えます。

【解説】

港湾空港関係の事業においては、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」（監修：国土交通省港湾局）及び「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」（監修：国土交通省航空局）の規定により設計・測量・調査等の業務が遂行されていることから、上記の共通仕様書及び各業務の特記仕様書に規定される成果品の電子納品に適用することを基本とします。

表 1-1 共通仕様書

No.	名称	監修
1	電気通信施設設計業務共通仕様書	国土交通省
2	地質・土質調査業務共通仕様書	広島県
3	測量業務共通仕様書	広島県

表 1-1 共通仕様書（港湾空港における読み替え）

No.	名称	監修
1	電気通信施設設計業務共通仕様書	国土交通省
2	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書	国土交通省港湾局
3	空港土木設計・測量・地質土質調査・ 点検業務共通仕様書	国土交通省航空局

8.2. 成果品の管理項目

8.2.1. 業務管理項目

対象路線水系コード及び名称の欄については、「港湾・海岸・空港コード」及び「港湾・海岸・空港名称」を記入します。

- ・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線コード
- ・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線名

【解説】

本資料「[2.2.1. 業務管理項目](#)」参照。

8.2.2. 報告書管理項目

成果品の電子媒体に格納する報告書管理ファイル（REPORT.XML）のうち、次の項目については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」の「成果物」または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」の「成果品」に規定する項目を記入します。

- ・ 報告書ファイル情報 - 設計項目
- ・ 報告書ファイル情報 - 成果品項目

【解説】

本資料「[2.2.2. 報告書管理項目](#)」参照。

9. 工事完成図書の電子納品等要領 電気通信設備編の運用

工事完成図書の電子納品等要領 電気通信設備編（平成 30 年 11 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

9.1. 適用

工事完成図書の電子納品等要領 電気通信設備編「1 適用」に記載された表 1-1 共通仕様書の内容については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」、または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」として読み替えます。

【解説】

港湾空港関係の事業においては、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」（監修：国土交通省港湾局）及び「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」（監修：国土交通省航空局）の規定により設計・測量・調査等の業務が遂行されていることから、上記の共通仕様書及び各業務の特記仕様書に規定される成果品の電子納品に適用することを基本とします。

表 1-1 共通仕様書

No.	名称	監修
1	電気通信設備工事共通仕様書	国土交通省
2	地質・土質調査業務共通仕様書	広島県

表 1-1 共通仕様書（港湾空港における読み替え）

No.	名称	監修
1	電気通信設備工事共通仕様書	国土交通省
2	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書	国土交通省港湾局
3	空港土木設計・測量・地質土質調査・ 点検業務共通仕様書	国土交通省航空局

9.2. フォルダ構成

9.2.1. 「REGISTER」フォルダ

港湾空港関係の事業では、「REGISTER」フォルダに格納すべき電子成果物が該当しないため、「REGISTER」フォルダを作成しません。

【解説】

本資料「3.2.1. 「REGISTER」フォルダ」参照。

9.3. 成果品の管理項目

「対象水系路線名」の欄については、港湾・海岸・空港名称を記入します。

・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線名

【解説】

工事の実施箇所の対象水系路線名については、テクリスの「路線・水系名等」に従って記入することとなっているが、港湾空港工事での工事実施箇所を明確にするために、港湾・海岸・空港名称を入力することとします。（資料 - 1 港湾・海岸・空港コード一覧表参照）

10. CAD 製図基準電気通信設備編の運用

CAD 製図基準 電気通信設備編（平成 29 年 3 月）【国土交通省】を，港湾空港関係の事業において適用する際に，留意すべき点を次に示します。

10.1. 表題欄

表題欄の記載事項及び様式については，本書「[4. CAD 製図基準の運用 4.1. 表題欄](#)」の規定に従います。

【解説】

港湾空港関係の事業における土木施設図面と電気通信設備図面の表記を合わせるため，表題欄の記載事項と様式については本書「[4. CAD 製図基準の運用 4.1. 表題欄](#)」の規定に従うものとします。

10.2. 図面管理項目

電子媒体に格納する図面管理ファイル（DRAWING.XML）のうち，次の項目については，次の規定に従います。

- ・ 共通情報－対象工種
- ・ 共通情報－追加工種
- ・ 図面情報－作成者名
- ・ 図面情報－縮尺

【解説】

「CAD 製図基準 電気通信設備編」1 総則 1-4 成果品 1-4-2 図面管理項目参照。

11. 土木設計業務等の電子納品要領 機械設備工事編の運用

土木設計業務等の電子納品要領 機械設備工事編（平成 30 年 11 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

11.1. 適用

土木設計業務等の電子納品要領 機械設備工事編「1 適用」に記載された表 1-1 共通仕様書の内容については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」、または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」として読み替えます。

【解説】

本資料「[2.1. 適用](#)」参照。

11.2. 成果品の管理項目

11.2.1. 業務管理項目

対象路線水系コード及び名称の欄については、「港湾・海岸・空港コード」及び「港湾・海岸・空港名称」を記入します。

- ・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線コード
- ・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線名

【解説】

本資料「[2.2.1. 業務管理項目](#)」参照。

11.2.2. 報告書管理項目

成果品の電子媒体に格納する報告書管理ファイル（REPORT.XML）のうち、次の項目については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」の「成果物」または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」の「成果品」に規定する項目を記入します。

- ・ 報告書ファイル情報 - 設計項目
- ・ 報告書ファイル情報 - 成果品項目

【解説】

本資料「[2.2.2. 報告書管理項目](#)」参照。

12. 工事完成図書の電子納品等要領 機械設備工事編の運用

工事完成図書の電子納品等要領 機械設備工事編（平成 30 年 11 月）を、港湾空港関係の事業において適用する際に、留意すべき点を次に示します。

12.1. 適用

工事完成図書の電子納品等要領 機械設備工事編「1 適用」に記載された表 1-1 共通仕様書の内容については、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」、または「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」として読み替えます。

【解説】

港湾空港関係の事業においては、「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書」（監修：国土交通省港湾局）及び「空港土木設計・測量・地質土質調査・点検業務共通仕様書」（監修：国土交通省航空局）の規定により設計・測量・調査等の業務が遂行されていることから、上記の共通仕様書及び各業務の特記仕様書に規定される成果品の電子納品に適用することを基本とします。

表 1-1 共通仕様書

No.	名称	監修
1	機械工事共通仕様書（案）	国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課発行
2	機械工事完成図書作成要領（案）	国土交通省総合政策局 建設施工企画課発行

表 1-1 共通仕様書（港湾空港における読み替え）

No.	名称	監修
1	機械工事共通仕様書（案）	国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課発行
2	機械工事完成図書作成要領（案）	国土交通省総合政策局 建設施工企画課発行
3	港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書	国土交通省港湾局
4	空港土木設計・測量・地質土質調査・ 点検業務共通仕様書	国土交通省航空局

12.2. フォルダ構成

12.2.1. 「REGISTER」フォルダ

港湾空港関係の事業では、「REGISTER」フォルダに格納すべき電子成果物が該当しないため、「REGISTER」フォルダを作成しません。

【解説】

本資料「3.2.1. 「REGISTER」フォルダ」参照。

12.3. 成果品の管理項目

「対象水系路線名」の欄については、港湾・海岸・空港名称を記入します。

・ 場所情報 - 水系・路線情報 - 対象水系路線名

【解説】

工事の実施箇所の対象水系路線名については、テクリスの「路線・水系名等」に従って記入することとなっているが、港湾空港工事での工事実施箇所を明確にするために、港湾・海岸・空港名称を入力することとします。（資料 - 1 港湾・海岸・空港コード一覧表参照）

13. 製図基準 機械設備工事編の運用

CAD 製図基準 機械設備工事編（平成 29 年 3 月）【国土交通省】を，港湾空港関係の事業において適用する際に，留意すべき点を次に示します。

13.1. 表題欄

表題欄の記載事項及び様式については，本書「[4. CAD 製図基準の運用 4.1. 表題欄](#)」の規定に従います。

【解説】

港湾空港関係の事業における土木施設図面と機械設備図面の表記を合わせるため，表題欄の記載事項と様式については本書「[4. CAD 製図基準の運用 4.1. 表題欄](#)」の規定に従うものとします。

13.2. 図面管理項目

電子媒体に格納する図面管理ファイル（DRAWING.XML）のうち，次の項目については，次の規定に従います。

- ・ 共通情報 - 対象工種
- ・ 共通情報 - 追加工種
- ・ 図面情報 - 作成者名
- ・ 図面情報 - 縮尺

【解説】

「CAD 製図基準機械設備工事編」1 総則 1-5 成果品 1-5-2 図面管理項目参照。

資料 - 1 港湾・海岸・空港コード一覧表

34. 広島県

港湾コード	港湾名称
34001	福山
34002	尾道糸崎
34003	広島
34004	呉
34005	横田
34006	中浜
34007	瀬戸田
34008	重井
34009	土生
34010	大西
34011	忠海
34012	竹原
34013	木江
34014	鯉崎
34015	御手洗
34016	安芸津
34017	蒲刈
34018	川尻
34019	釣士田
34020	大柿
34021	鹿川
34023	厳島
34024	大竹
34025	千年
34026	佐木
34027	中田
34028	小用（江田島）
34029	生口
34030	三高
34031	鷺部矢ノ浦
34032	大須
34033	津久茂
34034	阿伏兔
34036	大迫
34037	袋の内
34038	奥の内
34039	波多見
34040	吉悪
34041	小用（川尻）
34042	福田
34044	棕浦
34045	鹿田
34046	内海
34047	須波

空港

空港コード	空港名称
34801	広島空港

その他

その他コード	その他名称
60001	港湾局
60121	中国地方整備局管内
61004	音戸瀬戸航路
62009	瀬戸内海（広島）

資料-2 レイヤ名一覧表

1. 位置図

位置図の作成は次の通りとします。

項目	内容
尺度	対象範囲の大きさにより、CAD 製図基準「1-4-5 尺度」の規定と解説に従って適宜設定する。
記載事項	(1) 対象位置（対象区域、対象区間）、延長（面積）、施設名称、方位 (2) その他必要と認める事項
備考	地形図、港湾計画図等のラスタデータを利用してもよい。

【解説】

位置図は、設計段階ではあまり再利用されませんが、施工段階においては施工計画等に再利用されるため、電子化されたデータで納品することが望ましい。

基本となる地形図等が電子化されていない場合は、市販地図、港湾計画図をラスタデータに変換して利用することとなりますが、国土地理院等著作権者の許諾を得る等の方策について、予め受発注者間で協議し設計を進めることが望ましい。

その他必要と認める事項には、次の項目が挙げられます。

- ・工事の施工に必要な(仮)基準点・水準点の位置と座標（2. 平面図で作成する図面から外れた地点に位置する場合）

なお、位置図を平面図（ex. 一般平面図、全体平面図）の一部として 1 枚の図面に描く場合には、平面図の規定にも準拠することとします。

レイヤー一覧

レイヤ名			レイヤに含まれる内容	線色	線種
責任主体	図面 オブジェクト	作図要素			
S D C M	-TTL		輪郭線	青	実線
		-FRAM	タイトル枠	橙	
		-LINE	区切り線, 罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-BGD		現況地物	暗灰	
		-HICN	等高線（等深線）の計曲線及びその標高	赤	
		-LWCN	等高線（等深線）の主曲線及びその標高	白	
		-RSTR	ラスター化された地図	-	
		-EXST	特に明示すべき現況地物	暗灰	
		-UGND	既設埋設物	茶	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線, 寸法値	白	
	-BMK		基準線（中心線, 法線, 等）	黄	一点鎖線
		-SRVR	基準となる点（座標ポイント）	緑	
		-ROW	用地境界	橙	
		-DRCT	方位	黄	
		-HTXT	旗揚げ	白	
	-STR	-TXT	基準点座標等の文字列	白	
		-STR1	本体工 1（ケーソン, ブロック, 等）	赤	
		-STR2	本体工 2（矢板, 杭, タイ材, 腹起, 等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石, 裏込石, 等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD, SCP, DM, 等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫, 床掘, 切土・盛土, 等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱, 防舷材, 車止め, 電防, 等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル, 等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線, 寸法値	白	
	-BYP	-STR1	本体工 1（ケーソン, ブロック, 等）	赤	実線
		-STR2	本体工 2（矢板, 杭, タイ材, 腹起, 等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石, 裏込石, 等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD, SCP, DM, 等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫, 床掘, 切土・盛土, 等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱, 防舷材, 車止め, 電防, 等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル, 等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線, 寸法値	白	
	-DCR	-HCH1	ハッチ部 1	明灰	実線
		-HCHn	ハッチ部 n	任意	
		-MARK	石のマークなどの飾り記号	薄緑	
		-TIDE	潮位, 水位（図）	明青	
		-WIND	風向, 風速（図）	明青	
		-FRAM	凡例図枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	凡例等の文字列	白	
	-DOC		説明, 指示, 参照事項, 模式図の案内図, 等	白	
	-SUV		地形図等の改変しない測量成果データ	任意	任意

2. 平面図

平面図の作成は次のとおりとします。

項目	内容
尺度	対象範囲の大きさにより、CAD 製図基準「1-4-5 尺度」の規定と解説に従って適宜設定する。
記載事項	(1) 測量段階で示される項目・地形（水中部を含む）、既設構造物位置、方位、工事に関する（仮）基準点・水準点の位置及び高さ・用地境界線（水域境界を含む）、港湾名・地区名、主要施設名称 (2) 設計段階で示される項目・対象施設・部位名称、法線・中心線、延長・形状寸法・既設構造物との関係・その他必要と認める事項
備考	測量に関する情報は、基本的に次の通りとするが、特記仕様書等で別途規定がある場合はその規定を優先することとする。 (1) 測量の地形データと計画線を同じファイルに保存する。 (2) 測点は 20m 毎とし、起点から終点に向かって追番号または追記号及びそれらの組合せとする。 (3) 測点の配列方法は図面の左端（下端）を起点とし、右方向（上方向）に配列する。

【解説】

設計段階で作成する平面図は、対象施設を含む区域（範囲）と対象施設を、全体平面図、一般平面図、施設配置図等の図面名称で描かれます。

ここでは、これらの名称で作成される平面図を対象として規定します。

レイヤー一覧

レイヤ名			レイヤに含まれる内容	線色	線種
責任主体	図面 オブジェクト	作図要素			
S D C M	-TTL		輪郭線	青	実線
		-FRAM	タイトル枠	橙	
		-LINE	区切り線、罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-BGD		現況地物	暗灰	
		-HICN	等高線（等深線）の計曲線及びその標高	赤	
		-LWCN	等高線（等深線）の主曲線及びその標高	白	
		-RSTR	ラスター化された地図	-	
		-EXST	特に明示すべき現況地物	暗灰	
		-UGND	既設埋設物	茶	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-BMK		基準線（中心線、法線、等）	黄	一点鎖線
		-SRVR	基準となる点（座標ポイント）	緑	
		-ROW	用地境界	橙	
		-DRCT	方位	黄	
		-HTXT	旗揚げ	白	
	-STR	-TXT	基準点座標等の文字列	白	
		-STR1	本体工 1（ケーソン、ブロック、等）	赤	
		-STR2	本体工 2（矢板、杭、タイ材、腹起、等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石、裏込石、等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD、SCP、DM、等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫、床掘、切土・盛土、等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱、防舷材、車止め、電防、等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル、等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-BYP	-STR1	本体工 1（ケーソン、ブロック、等）	赤	実線
		-STR2	本体工 2（矢板、杭、タイ材、腹起、等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石、裏込石、等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD、SCP、DM、等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫、床掘、切土・盛土、等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱、防舷材、車止め、電防、等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル、等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-DCR	-HCH1	ハッチ部 1	明灰	実線
		-HCHn	ハッチ部 n	任意	
		-MARK	石のマークなどの飾り記号	薄緑	
		-TIDE	潮位、水位（図）	明青	
		-WIND	風向、風速（図）	明青	
		-FRAM	凡例図枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	凡例等の文字列	白	
	-DOC		説明、指示、参照事項、模式図の案内図、等	白	
	-SUV		地形図等の改変しない測量成果データ	任意	任意

3. 標準断面図・横断図

標準断面図・横断図の作成は次のとおりとします。

項目		内容
尺度		対象範囲の大きさにより、CAD 製図基準「1-4-5 尺度」の規定と解説に従って適宜設定する。
記載事項	標準断面図	標準断面図の記載項目は、以下を基本とする。 (1) 対象施設本体（上部工，本体工，基礎工，付帯工，地盤改良工，等）及び名称，仕様，形状寸法（法面勾配を含む） (2) 施設法線，中心線 (3) 現況地盤線，推定地層境界線（推定支持層線を含む） (4) 潮位 (5) 既設構造物及びその位置関係 (6) その他必要と認める事項
	横断図	横断図の記載項目は、以下を基本とする。 (1) 対象施設本体（上部工，本体工，基礎工，付帯工，地盤改良工，等）及び名称，形状寸法（法面勾配を含む） (2) 施設法線，中心線 (3) 現況地盤線 (4) 潮位 (5) 既設構造物及びその位置関係 (6) 測点・測線番号 (7) その他必要と認める事項
備考		縦横比の異なる図面を作図する場合には、使用する CAD ソフトにより対応が異なるため、対応方法を関係者間で協議する。

【解説】

標準断面図は、対象区間のうち代表的な断面及び特殊な断面について作成するものとします。

設計で使用した地質調査結果がある場合、あるいは設計で想定した地質想定結果が数量算定や工事施工に影響する場合には、推定地層境界線（推定支持層線を含む）を標準断面図・横断図に記載するものとします。

横断図は原則として表題欄に重ならないようにします。ただし、横断図の横幅が大きく表題欄の余白が確保できない場合には、表題欄の位置を変更してもよいこととします。

横断図の視方向は、起点から終点方向とすることを原則とします。

レイヤー一覧

レイヤ名			レイヤに含まれる内容	線色	線種
責任主体	図面 オブジェクト	作図要素			
S D C M	-TTL		輪郭線	青	実線
		-FRAM	タイトル枠	橙	
		-LINE	区切り線、罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-BGD		現況地物	暗灰	
		-EXGL	現況地盤線	青紫	
		-BNDR	推定地層境界線	青	
		-ETRL	推定支持層線	青	
		-UGND	既設埋設物	茶	
		-BRG	ボーリング柱状図	任意	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-BMK	-BMK1	構造物基準線 1（中心線、法線、用地境界線、等）	黄	一点鎖線
		-BMK2	構造物基準線 2（標高の目盛、破断線）	黄	
		-HTXT	旗揚げ	白	
	-STR	-STR1	本体工 1（ケーソン、ブロック、等）	赤	
		-STR2	本体工 2（矢板、杭、タイ材、腹起、等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石、裏込石、等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD、SCP、DM、等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫、床掘、切土・盛土、等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱、防舷材、車止め、電防、等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル、等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-BYP	-STR1	本体工 1（ケーソン、ブロック、等）	赤	実線
		-STR2	本体工 2（矢板、杭、タイ材、腹起、等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石、裏込石、等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD、SCP、DM、等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫、床掘、切土・盛土、等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱、防舷材、車止め、電防、等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル、等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-MTR		材料表タイトル	白	実線
		-FRAM	材料表枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-DCR	-HCH1	ハッチ部 1	明灰	
		-HCHn	ハッチ部 n	任意	
		-MARK	石のマークなどの飾り記号	薄緑	
		-TIDE	潮位、水位（図）	明青	
		-WIND	風向、風速（図）	明青	
		-FRAM	凡例図枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	凡例等の文字列	白	
	-DOC		説明、指示、参照事項、模式図の案内図、等	白	任意
	-SUV		地形図等の改変しない測量成果データ	任意	

4. 縦断図・正面図

縦断図及び正面図の作成は次のとおりとします。

項目		内容
尺度		縮尺は、次を標準とする。 $H=1:1 \times 10^n$, $V=1:2 \times 10^{(n-1)}$, または, $H=1:1 \times 10^n$, $V=1:5 \times 10^{(n-1)}$ なお、上記によらない場合は対象範囲の大きさにより、CAD 製図基準「1-4-5 尺度」の規定と解説に従って適宜設定する。
記載事項	標準断面図	縦断図の記載項目は、次を基本とする。 (1) 対象施設本体（上部工，本體工，基礎工，付帯工，地盤改良工，等）及び名称，仕様，形状寸法（法面勾配を含む） (2) 現況地盤線，推定地層境界線（推定支持層線を含む） (3) 潮位 (4) 既設構造物及びその位置関係 (5) 帯部は以下の順番に記載する。 1) 縦断勾配線 2) 計画高（計画天端高，計画基礎マウンド高，等） 3) 現況地盤高 4) 追加距離 5) 単距離 6) 測点・測線番号 (6) その他必要と認める事項
	横断図	正面図の記載項目は、次を基本とする。 (1) 対象施設本体（上部工，本體工，基礎工，付帯工，地盤改良工，等）及び名称，仕様，形状寸法（法面勾配を含む） (2) 現況地盤線 (3) 潮位 (4) 既設構造物及びその位置関係 (5) 測点・測線番号 (6) その他必要と認める事項
	備考	縦横比の異なる図面を作図する場合には、使用する CAD ソフト

【解説】

縦断図及び正面図の作成に際しては、次の点についても留意します。

- ・ 起点を左に，終点を右にすることを原則とします。
- ・ 平面図と正面図（または縦断図）を併記する場合には，上段に平面図，下段に正面図（または縦断図）を作図します。

レイヤー一覧

レイヤ名			レイヤに含まれる内容	線色	線種
責任主体	図面 オブジェクト	作図要素			
S D C M	-TTL		輪郭線	青	実線
		-FRAM	タイトル枠	橙	
		-LINE	区切り線、罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
		-BAND	縦断図の帯	白	
	-BGD		現況地物	暗灰	
		-EXGL	現況地盤線	青紫	
		-BNDR	推定地層境界線	青	
		-ETRL	推定支持層線	青	
		-UGND	既設埋設物	茶	
		-BRG	ボーリング柱状図	任意	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-BMK	-BMK1	構造物基準線 1（中心線、法線、用地境界線、等）	黄	一点鎖線
		-BMK2	構造物基準線 2（標高の目盛、破断線）	黄	
		-HTXT	旗揚げ	白	
	-STR	-STR1	本体工 1（ケーソン、ブロック、等）	赤	
		-STR2	本体工 2（矢板、杭、タイ材、腹起、等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石、裏込石、等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD、SCP、DM、等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫、床掘、切土・盛土、等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱、防舷材、車止め、電防、等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル、等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-BYP	-STR1	本体工 1（ケーソン、ブロック、等）	赤	実線
		-STR2	本体工 2（矢板、杭、タイ材、腹起、等）	赤	
		-STR3	上部工	赤	
		-STR4	舗装工	赤	
		-STR5	基礎工・裏込工（基礎捨石、裏込石、等）	赤	
		-STR6	地盤改良工（SD、SCP、DM、等）	赤	
		-STR7	消波工	赤	
		-STR8	土工（浚渫、床掘、切土・盛土、等）	赤	
		-STR9	付属工（係船柱、防舷材、車止め、電防、等）	赤	
		-STRn	その他	赤	
		-TXT	文字列（各図面要素のタイトル、等）	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線、寸法値	白	
	-MTR		材料表タイトル	白	
		-FRAM	材料表枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-DCR	-HCH1	ハッチ部 1	明灰	
		-HCHn	ハッチ部 n	任意	
		-MARK	石のマークなどの飾り記号	薄緑	
		-TIDE	潮位、水位（図）	明青	
		-WIND	風向、風速（図）	明青	
		-FRAM	凡例図枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	凡例等の文字列	白	
	-DOC		説明、指示、参照事項、模式図の案内図、等	白	
	-SUV		地形図等の改変しない測量成果データ	任意	任意

5. 構造図・詳細図・製作図

構造図，詳細図，製作図の作成は次のとおりとします。

項目		内容
尺度		縮尺は，次を標準とする。 $1:1 \times 10^n$ ， $1:2 \times 10^n$ ，または， 5×10^n なお，上記によらない場合は対象範囲の大きさにより，CAD 製図基準「1-4-5 尺度」の規定と解説に従って適宜設定する。
記載事項	構造図 詳細図 製作図	記載項目は，次を基本とする。 (1) 対象構造物の側面図，平面図，断面図と名称，仕様，形状 寸法（法面勾配を含む） (2) 材料表（名称，規格・寸法，数量，等） (3) その他必要と認める事項
備考		1 枚の図面に異なる尺度の構造物を複数作図する場合には，使用する CAD ソフトにより対応が異なるため，対応方法を関係者間で協議する。

【解説】

形状の表示において，形鋼，鋼矢板・鋼杭，薄板構造等の表示は，実寸で表すのが望ましい。このとき板材の形状を図示する場合，板の厚みを 2 本の線で表現します。

なお，紙に出力した場合見えにくくなる部分に関しては，寸法の表現で対応するものとします。

ボルト接合におけるボルトの記号は，ボルトの形状や締め付け施工場所により表すものとします。また，ボルトの表示については十字の中心に黒丸を書くこととしてもよいです。

レイヤー一覧

レイヤ名			レイヤに含まれる内容	線色	線種
責任主体	図面 オブジェクト	作図要素			
S D C M	-TTL		輪郭線	青	実線
		-FRAM	タイトル枠	橙	
		-LINE	区切り線, 罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-BMK	-BMK1	構造物基準線 1 (中心線, 法線, 等)	黄	一点鎖線
		-BMK2	構造物基準線 2 (破断線)	黄	
		-HTXT	旗揚げ	白	
	-STR	-STR1	構造物 1 (主構造物外形線)	赤	実線
		-STR2	構造物 2 (吊り筋, 等)	赤	
		-STRn	構造物 n	赤	
		-TXT	文字列 (各図面要素のタイトル, 等)	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線, 寸法値	白	
	-BYP	-STR1	構造物 1 (主構造物外形線)	赤	
		-STR2	構造物 2 (吊り筋, 等)	赤	
		-STRn	構造物 n	赤	
		-TXT	文字列 (各図面要素のタイトル, 等)	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線, 寸法値	白	
	-MTR		材料表タイトル	白	
		-FRAM	材料表枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-DCR	-HCH1	ハッチ部 1	明灰	
		-HCHn	ハッチ部 n	任意	
		-MARK	石, コンクリートなどのマークの飾り	薄緑	
		-FRAM	凡例図枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	凡例等の文字列	白	
	-DOC		説明, 指示, 参照事項, 模式図の案内図, 等	白	

6. 配筋図

配筋図の作成は次のとおりとします。

項目	内容
尺度	縮尺は、1:10～1:100 を標準とする。 なお、上記によらない場合は対象範囲の大きさにより、CAD 製図基準「1-4-5 尺度」の規定と解説に従って適宜設定する。
記載事項	配筋図の記載事項は、次を基本とする。 (1) 対象構造物の形状寸法(平面図, 断面図, 等による) (2) 鉄筋配置図(鉄筋番号, 鉄筋径, 配置, 等) (3) 鉄筋加工図(鉄筋番号, 鉄筋径, 加工形状, 本数, 等) (4) 鉄筋表(鉄筋番号, 鉄筋径, 本数, 重量, 等) (5) その他必要と認める事項
備考	1 枚の図面に異なる尺度の構造物を複数作図する場合には、使用する CAD ソフトにより対応が異なるため、対応方法を関係者間で協議する。

【解説】

配筋図は、鉄筋の配置や PC 鋼材の配置など、主にコンクリートの内部を表現し、鉄筋その他の加工や配置を決める重要な図面です。配筋図では、切断面に現れた鉄筋を一本の実線で示すことを原則とし、必要に応じて切断面に現れない鉄筋を破線・一点鎖線で示すこととします。

鉄筋はその目的に応じて種々の径のものが使用されるが、これらすべてを径に応じた太さの線で表現しなくても良いです。

鉄筋の断面は、円を塗りつぶして紙に出力するのが原則とします。

レイヤー一覧

レイヤ名			レイヤに含まれる内容	線色	線種
責任主体	図面 オブジェクト	作図要素			
S D C M	-TTL		輪郭線	青	実線
		-FRAM	タイトル枠	橙	
		-LINE	区切り線, 罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-BMK		構造物基準線 (中心線、等)	黄	一点鎖線
		-HTXT	旗揚げ	白	
	-STR		構造物外形線	緑	実線
		-STR1	構造物 1 (配筋図)	赤	
		-STR2	構造物 2 (鉄筋加工図)	赤	
		-STRn	構造物 n	赤	
		-TXT	文字列 (各図面要素のタイトル, 等)	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線, 寸法値	白	
	-BYP		構造物外形線	緑	
		-STR1	構造物 1 (配筋図)	赤	
		-STR2	構造物 2 (鉄筋加工図)	赤	
		-STRn	構造物 n	赤	
		-TXT	文字列 (各図面要素のタイトル, 等)	白	
		-HTXT	旗揚げ	白	
		-DIM	寸法線, 寸法値	白	
	-MTR		材料表タイトル	白	
		-FRAM	材料表枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-DCR	-HCH1	ハッチ部 1	明灰	
		-HCHn	ハッチ部 n	任意	
		-FRAM	凡例図枠	橙	
		-LINE	罫線	白	
		-TXT	文字列	白	
	-DOC		説明, 指示, 参照事項, 模式図の案内図, 等	白	

資料 - 3 港湾工事工種体系ツリー

「港湾工事工種体系ツリー」は、次の『積算基準等に係る情報』ページ内の「港湾請負工事積算基準について」に公開されていますので、そちらを参照してください。

http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_fr5_000019.html

資料 - 4 空港土木工事工種体系ツリー

「空港土木工事工種体系ツリー」は、次のホームページで公開されていますので、こちらを参照してください。

<http://www.y.sk.nilim.go.jp/kakubu/kukou/sekou/page-siryou2RN.html>